平成十七年酉年式年大祭記念事業の経過

宮司　黒田忠雄

重陽の節句も過ぎ、山の端にはススキが穂をなびかせ、赤トンボが群れて飛び交う様は、秋の深まりを身近に感じさせます。

年々暑い夏に見舞われますが、御嶽の山では三十度を越す日はほとんどなく、本年も八月八日の三十一度が最高気温でその日だけが真夏日でした。二番目の暑さが七月二十日の二十八度（いずれも御岳ビジターセンター測定値）で、熱帯夜もなく、涼しい夏を過ごせることができました。

反面、冬になりますと降雪、低温に悩まされ、厳しい生活に追い込まれ、夏の涼しさが帳消しとなってしまいます。

ご講中、崇敬者の皆様方には、猛暑の夏をいかがお過しでしたでしょうか。

夏ばての方などは体力の回復に、澄み切った秋空の下、新鮮な空気を胸いっぱいご参拝をかねて、御嶽山へお登りになったらいかがでしょうか。

ここで現在神社で進めております平成十七年式年大祭記念事業につきまして、その経過を簡単にご報告をさせていただきます。

事業資金としてご寄進をお願い致しておりますご浄財につきましては、皆様方のご理解とご協力によりまして順調に社入されておりまして、心から御礼を申し上げます。

一方、整備工事につきましても予定どおり進捗いたしておりまして、避雷針新設工事、宝物殿外部塗装工事はすでに完成を見、大鳥居建替工事については柱材を自然乾燥中であります。

幣殿・拝殿屋根銅板葺替工事は、来春早々に着手すべく、現在準備を進めているところであります。

このように御嶽大神様の御恩頼（みたまのふゆ）により順調に事業も進んでおりますが、残された二年余の期間、十分なる配意をもってこれにあたって行く所存でありますので、ご講中、崇敬者の皆様方の更なるご支援、ご協力を切にお願い申し上げご報告といたします。

平成十七年酉年式年大祭記念事業

当社では、酉年式年大祭を記念して左記事業を計画し、順次工事を行ってまいります。この事業の趣旨にご賛同いただける方は、随時ご寄進を受け付けております。

講中関係の皆様は主幹宮司に、崇敬者の方は社頭にてお願いいたしております。

一、大鳥居建替
一、**避雷針新設**
　（平成十三年竣工）
一、幣殿・拝殿屋根銅板葺替
一、**宝物殿外部塗装**
　（平成十四年竣工）
一、随身門屋根銅板葺替
一、放水銃新設

菩提樹講について

所沢市山口菩提樹講（ぼだいぎ）　講元　栗原實

私達の菩提樹講の結講は古く東馬場家の講社台帳によると、元禄十六年（西暦一七〇三年）と成っております。約三百年の長い歴史と伝統で今日まで引き継がれて来ておりますので、先祖から代々受け継がれた大切な講を、次世代に残す責任と義務があると考えております。

講員は四十五名で構成され、講元、副講元、世話人で運営しております。その任期については制限がなく、本人の申し出により交代ができます。選出方法は定期総会で講員の互選によって任命されます。

行事については、五月に代参者五名により御嶽神社登山参拝。定期総会及び下山祭を合わせて行い、自治会館内に御嶽様の掛け軸、御嶽様のお札を前に全員で二礼、二拍手、一礼で豊作、家内安全を祈願して直会（なおらい）にうつり、御神酒を頂き酒ビールを酌みかわし和気あいあいと語り合い、次回の行事を楽しみにして居ります。

平成八年には歴史のある菩提樹講の結講記念碑を設立し奉納させて頂きました。主幹宮司の馬場様には常々多大なるお力添えをいただき、誠に感謝いたして居ります。

最後になりましたが、御嶽神社のご加護と神社関係各位のご多幸をお祈り申し上げます。

太々神楽奏上

（平成十三年六月一日より十四年五月三十一日まで）

川越市　古谷上講
多摩市　永山講
カンタンの声を聞く会
新座市　西分太々講
武蔵村山市　三ツ木宿講
町田市　上根講
府中市　文学散歩の会
青梅市　㈱荒井電業社
川越市　大中居講
川島町　中山中廓講
狭山市　水中御嶽講
川崎市　馬絹講
川崎市　新城講
横浜市　羽沢御嶽講
第三区A地区
練馬区　南田中講
秦野市　秦野太々講
川口市　元郷講
仏法僧と探鳥の集い
川崎市　犬蔵講
川崎市　小杉御嶽講
川崎市　神木講
大田区　六郷御嶽参拝講
世田谷区　赤堤講
新座市　石神太々講
愛川町　田代講
西多摩郡北部建設組合